



この写真は、四月二十四日に行われた朝酌川河川敷「フラワープロジェクト」の除根・除石作業に参加した方々です。このプロジェクトは、朝酌川河川敷を整備し、そ



「地域を共に創るハート」

島根県立松江東高等学校

校長 田中正樹

ここにコスモスの種を播いて、秋にはコスモスの花でいっぱいの中川敷にしようという心温まるプロジェクトです。この日は、このプロジェクトの趣旨に賛同した約七十名の方が参加し、本校からも約二十名の生徒が参加しました。十一月三日～七日には、「コスモス祭り」が計画されていますが、その頃には新型コロナウイルス感染症のワクチンが行き渡り、みんなで祭りが祝えるといいなと思っています。

さて、選挙年齢が引き下げられ、来年度からは成年年齢が十八歳へと引き下げられることになりました。高校生にとって政治や社会はいつそう身近なものになるとともに、自ら考え、積極的に国家や社会の形成に参画する環境が整いつつあります。一方、学校が抱える課題が複雑化・困難化する中で、これまでどおり学校だけでその実現を担うことは困難になってきています。

このような中、来年度から始まる新しい高等学校学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が重要視されています。

本校は、今回、「めざす学校像」の中に、「地域連携で深い学びを追究する普通高校」

を盛り込みました。これは、地域連携を通して、地域で活躍されている様々な方の思いや考え方に直接触れ、地域の今と未来に思いを馳せながら、より深い学びを追究する普通高校という意味です。その中で、自分の将来像がイメージされ、よりよい社会を地域の方々と共に創り上げていこうとする「地域共創のハート」が育まれるとともに、よりよい地域社会を共に創っていくこととする「実践力」が培われるものと考えています。このような「実践力」を持つ人を本校では「地域共創人」と呼んでいます。そしてこのような取り組みの中で、今までのような各教科個別に学ぶ学習から、地域の未来に向け、地域の方と色々な課題を共有しながら、教科で学んだ知識を総動員して解決策を探っていく、教科横断的で深い学びへと発展していくことを期待しています。

「フラワープロジェクト」には、前述の一回も含め、六月末までに三回、除根・除石作業に参加させていただきましたが、毎回新しい方の参加があり、このプロジェクトが地域を挙げたものに発展しつつあるなと感じています。そして、参加される方々皆さんから、「地域を共に創るハート」が感じられます。

先日は、フラワープロジェクト実行委員会も立ち上がり、私も委員に加えていただきました。このプロジェクトが地域活性化につながることも、このような活動を通して、生徒の中にも「地域を共に創るハート」が生まれ、「実践力」が培われることを願っています。